

Wakaba F.C. 基本方針

1. Respect の精神を育てる。

- ・Wakaba F.C. の招待大会名が『Respect Cup』であるように、サッカーは1人では成立しないスポーツであり、周囲の指導者や仲間をはじめ、チーム運営関係者、保護者、大会運営関係者、対戦相手など、多くの協力の下で成立していることを選手が理解できるよう促し、感謝の心を育むとともに、常に Respect の精神を持って挨拶することや行動することの大切さを教える。
 - ・選手が一生懸命に楽しくプレーできるようサポートし、夢をかなえるために関わり、将来を見据えて育てていく。
 - ・フェアプレー精神の徹底だけでなく、ルールを遵守し、不正なプレーは選手として成長しないことを理解させる。
- (JFA におけるリスペクトに関する取組 : <https://www.jfa.jp/respect/>)

2. 持続可能なクラブとする。

- ・運動が苦手でも、障害があっても、外国人でも、誰でも入れるクラブとして、Wakaba F.C. が地域から信頼されるための持続可能な仕組み（合議制、指導方針、マニュアル）を作り、これを継承していく。
- ・こうした仕組みの下で、指導者は自らを過信せず、常に省みることで時代に合わせた指導を行えるよう取り組む。
- ・サッカーは本来、楽しいもの、爽快感を得られるものであることを前提とし、Wakaba F.C. における、あらゆる暴力・暴言やハラスメントを排除する。
- ・選手が安全・安心してサッカーに取り組むことができる環境（熱中症対策、設備）を整備する。

3. 競技としてのサッカーにおいては選手個人の能力を最大限に発揮できる環境を作る。

- ・『クラブの勝利』より『選手個人の成長』を大切にする。
- ・選手一人ひとりを持って生まれた才能に個人差があり一律でないことを前提とし、その中で最大限の個人能力向上を目指す。
- ・選手個人を他の選手と比較するのではなく、成長には個人差があることを前提とし、それぞれの時間軸で評価する。

4. 選手個人が小学校卒業までサッカーを続け、その後の礎になる準備を行う。

- ・選手個人がいつまでもサッカーに親しむことができるよう、U-12 年代までに習得すべき基本的な技術を身につけて卒業させる。
- ・能力の著しく高い選手を留めようとすることは指導者の驕りであり、成長の芽を摘むことになりかねない。

- ・選手個人が途中で辞めてしまうことは必ずしも悪いことではない。その選手にとってより良い方法を選ぶべきであり、他クラブへの移籍がその選手にとって有効であれば Wakaba F.C. に拘ってはならない。
- ・しかし、途中でクラブを辞めた選手は次のクラブや、別のスポーツでも長続きせず、その後の将来も『辞めグセ』がついているケースが多いことから、一生懸命続けることの大切さも伝えていく。

5. 楽しさを優先した教育を行う。

- ・サッカーの楽しさを伝えることを優先した指導とする。
- ・時には苦しい練習、厳しい指導、叱って育てることはとても大切であるが、褒めることよりも難しい指導である。これらを優先するのではなく、試合や練習の結果として選手個人が自発的に『厳しさも必要である』と感じることを理想とする。
- ・また、様々な体験が選手の心や脳に良い刺激を与えるため、サッカー以外の各種イベントを企画・実施する。

6. 長所を大きく育み、限らない可能性のある個性を尊重する指導を行う。

- ・長所は決して『ケチ』をつけず、ドンドン伸ばすことが重要である。
- ・一方で、短所の矯正は大切だが、先ずはそれが本当に短所なのか、強い個性なのかを見極める必要がある。
- ・その上で、短所だと考えられる場合であっても、叱らずヒントを与え考えさせる。
- ・才能や成長には個人差があることから、全選手が平均的に成長することは不可能であり、ある一定の選手だけが更に上達することも受け入れるべきである。